

名勝 旧関山宝蔵院庭園

平成30年度の修復整備の概要



平成30年度の修復整備工事で
失われた滝水の流れがよみがえりました。

2018.10.04撮影

庭園の修復整備事業を開始して4年目（工事3年目）となる平成30年度は、江戸時代の遺構として残る石組や石積の修復とともに、滝口につながる新たな導水路の設置工事を行い、御膳清水が滝から流れ落ちるかつての姿を復元しました。

滝水が復元されるまでの動き



[き損した石組の修復]

き損した正面の滝石組^{たきいしぐみ}や隣接する斜面の景石組^{けいせきぐみ}を対象として、必要な範囲で解体・積み直しを行いました。滝石組の南側（向かって左側）では多くの石が転落していましたが、全ての石を取り上げ、再設置しています。

また、池底に散乱していた石を片付け、池の中に造作された「亀島」^{かめじま}の手足となる景石の復旧や破損部分の接合を行いました。



[園池の修復]

長い間水が枯れた状態になっていた園池^{えんち}については、切株を抜根し、護岸石積^{ごがんいしづみ}の崩れた部分や石が抜けた部分を修復しました。

また、池の北側と南側の水位を適正に保つために、池の中央部と南端部の2か所に水門を設け、角落し板を設置しました。これは、江戸時代の水門跡の発掘成果に基づいて復元しました。



[導水路跡と排水路跡の修復]

機能を失っていた導水路跡と排水路跡についても、崩れた石積の修復を行い、護岸石と護岸石の隙間に補強のための粘土を詰めました。

また、水路は約 50 cm幅と狭いため、洗掘の防止とともに、ゆるやかな水の流れを強調するために、栗石を敷き詰めました。



[新たな導水設備の設置]

近くを流れる御膳清水^{ごぜんしみず}と庭園をつなぐ水路が途絶えていたため、地元の「御膳清水用水組合」の皆さんからご理解とご協力をいただき、滝口へ水を供給するための分水柵^{ぶんすいす}と暗渠水路^{あんきすいろう}を新たに設置しました。

こうした一連の導水路工事によって、失われていた庭園内を通る水の流れが復元され、江戸時代の庭園の景観がよみがえりました。